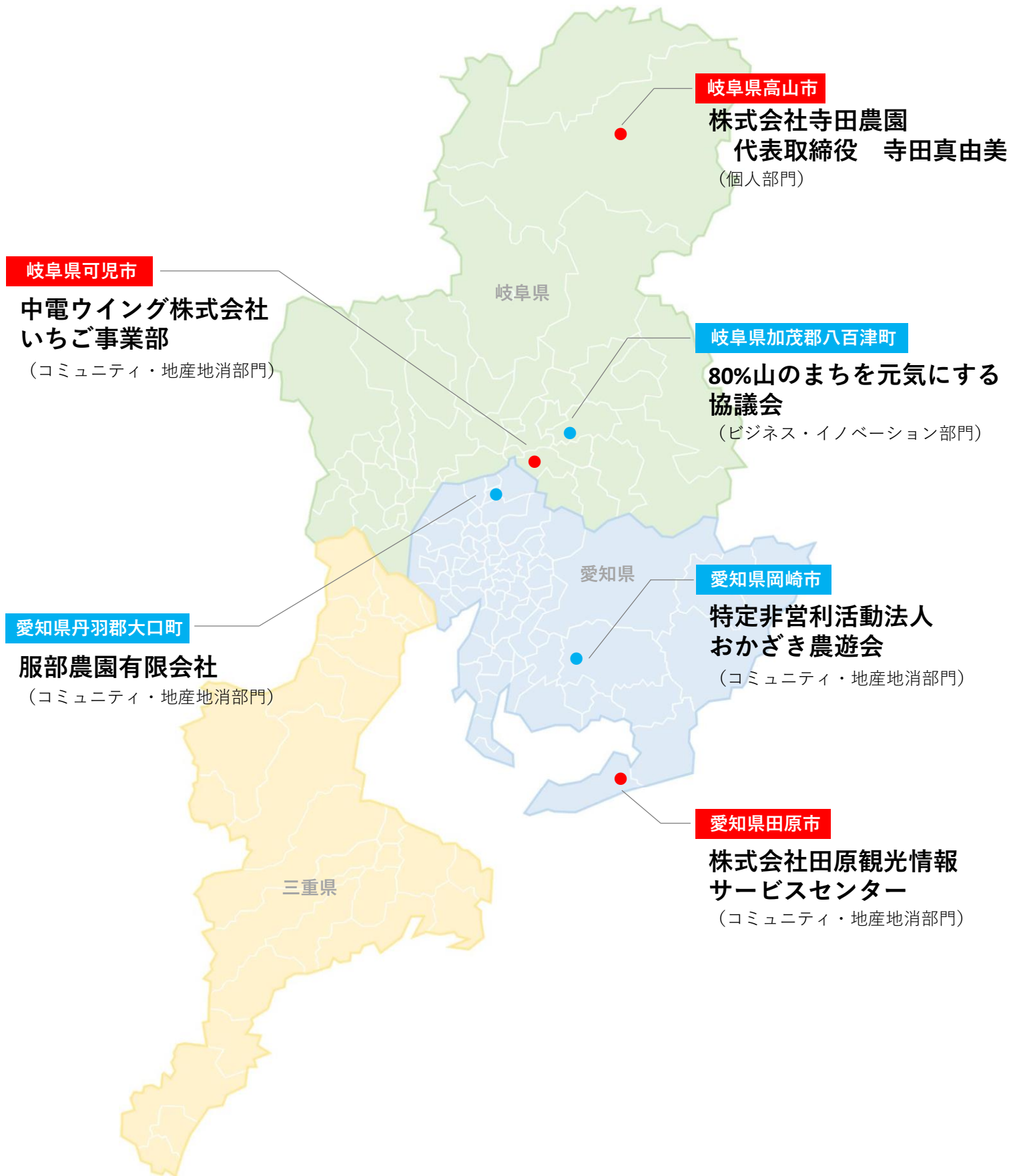


東海農政局管内の選定地区の概要

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝アワード」（第11回選定）位置図



青色は、全国選定地区
赤色は、東海農政局選定地区

1 80%山のまちを元気にする協議会

(岐阜県加茂郡八百津町)

ー 大自然に育まれた八百津「あるべき姿」を考えるー



地酒体験イベント



製材・木工体験



藤蔓を山車に活用

農泊

農村文化体験

農村環境・景観保全



概要

- 八百津町の今につながる文化と歴史を体験型ワークショップにまとめ、長期滞在ツアーに詰め込み提供する農泊実施体制を確立。
- 山の荒廃の象徴ともされている藤蔓を祭りの山車に活用する取組や、かつて生活道として使用されていた古道を整備する等の活動をととして、里山の自然環境整備に取り組んでいる。

成果

- 農泊での売上は、約478万円（令和4年度）から約1,316万円（令和5年度）に増加。
- 延べ宿泊者数は、497人（令和4年度）から1,038人（令和5年度）に増加。体験ワークショップ参加者は51人（令和3年度）から224人（令和5年度）に増加し、八百津町の観光客誘致に貢献。

2 特定非営利活動法人 おかざき農遊会

(愛知県岡崎市)

－ 荒地は人の心を荒廃させる めざせ！菜園都市－



定期的に開かれる朝市での販売風景



サツマイモの収穫体験



まちなか菜園での指導風景

荒廃地対策

食育・教育

関係人口の創出



概要

- 「菜園都市おかざき」を掲げ、次世代を担う子供達をはじめ広範な市民を対象に野菜づくりの楽しさを伝える活動に力を注いでいる。
- 耕作管理する農地は、耕作放棄地再生を中心に約14万㎡まで拡大。栽培した野菜は、定期開催する朝市等を通じ、市民へ安価で販売している。

成果

- 事業収益は約970万円（令和5年度）。平成28年度以降は財政自立化を達成し、現在も継続。
- 食農教育参加者は2,835人（令和元年度）から9,295人（令和5年度）に増加。農業や地域コミュニティの活力創造、次世代への継承に貢献。

3 服部農園有限会社

(愛知県丹羽郡大口町)

－ 新・地域循環！町と人と農業のいい関係－



名所となった耕作放棄地のヒマワリ畑



ゴミ拾い活動



田んぼの学校2023・収穫体験

都市農業

地産地消

荒廃農地対策



概要

- 平成30年に耕作放棄地を活用し、約30aの農地にヒマワリを咲かせた。年々花畑の数を増やし、令和3年からは花の種代を同町の企業が支援。種まきや石拾いをイベントとして町の人たちと行っている。
- 令和3年より、毎月第3土曜日の朝に農地のゴミ拾い活動を主催。また、同年より「田んぼの学校」を主催し、家族ぐるみで米作りや身近な昆虫などを学ぶ機会を創出している。

成果

- 直営店舗の売り上げは約2,500万円（令和元年度）から6,077万円（令和5年度）に増加。主食米の約70%を地域の一般客や飲食店が買い支え、地域農業を守っている。
- 直営店舗登録顧客数は300人（令和元年度）から約1,700人（令和5年度）に増加。

4 株式会社寺田農園 代表取締役 寺田真由美 (岐阜県高山市)

ー 飛騨の風土を生きしきるー



食育ワークショップ風景



女性農業者活躍促進スキルアップ事業活用



家族参観日

農業

六次産業化

食育・教育



概要

- 女性活躍の事例収集のための視察や女性農業者の視察を受け入れ、事例発表や講演を行うことで、女性農業者のロールモデルとしての役割を果たしている。
- 地域住民に対する就業体験や食育ワークショップなどを通じて地域農業の大切さや地域農産物のおいしさを伝えている。

成果

- 加工受託売上は約1,985万円（令和元年度）から約3,235万円（令和5年度）に増加。商品販売売上は約1,965万円（令和元年度）から約2,040万円（令和5年度）に増加。
- 地域内外の農家100軒と連携して地域の農産物を使った商品を開発し、地域農業の維持・発展に貢献。

5 中電ウイング株式会社 いちご事業部

(岐阜県可児市)

ー日本一働きたい会社ー



農福連携商品
「贅沢バウム ウイングいちご」



小学生による定植体験



廃棄イチゴ対策加工品
「Jam the Berry」

農福連携

教育機関との連携

農業



概要

- 障害者に対する差別や偏見をなくすため、地域の小学校と連携し農業体験を通じた多様性教育に取り組んでいる。
- 農福連携に取り組む地域の事業者とコラボ商品の開発、障害のある社員の交流など、新しい農福連携を実践している。

成果

- イチゴ生産の作業特性に知的障害者の特性が合うと考え、令和4年からイチゴ生産を事業化。令和6年現在、152名の障害者を雇用。
- 地域の小学校交流事業における体験参加児童数は244人（令和5年度）。教育面において地域に貢献するとともに、障害者雇用に対する理解促進につながっている。

6 株式会社田原観光情報サービスセンター

(愛知県田原市)

―道の駅から【地域の皆さんが主役】を実現―



道の駅内の地産地消型六次産業化商品

六次産業化

農泊

食育・教育



概要

- 田原市内の3つの道の駅を運営しながら地域の活性化に取り組んでいる。
- 売れ残った野菜を有効活用して六次産業化商品を開発し、道の駅内で加工販売することで生産者の所得の向上とフードロス削減に取り組んでいる。
- 旅行第2種登録を取得して旅行業を開始し、道の駅内に観光案内所を設置。また、農泊推進協議会を設立し農泊の取組を開始するとともに、観光地域づくり法人（DMO）の認定を受けて地域資源を活用したツアーの開発等にも取り組んでいる。

成果

- 道の駅を中心に田原市内の農林水産業、宿泊業、体験プログラム主催者、交通事業者等との連携が深まり、地域が一体となって地域資源・産物のPRや販売活動が可能となり地域が活性化。令和5年度の田原市の観光入込客数は2,342千人となり前年度に比べ274千人増加。



電照菊の秘密を知る
体験プログラム



農泊モニターツアー
養蜂家によるミツバチ講座